

## 第八回梅原賞授与式について

第八回梅原賞授与式を横浜市立大学附属病院十階で開催しました。大学の二見良之理事長ほか多数の皆様にご出席頂きましたことを心から嬉しく思っております。

今回の対象研究者は、平成三十年度及び令和元年度に三年間の推進研究を終了した各三名、合計六名です。厳正な選考の結果、横浜市立大学大学院医学研究科

免疫学教室 講師 黒滝 大翼（だいきけ）先生が受賞者に決定しました。研究課題は「単球・樹状細胞分化を制御する遺伝子発現制御機構の解明」です。

当日、「タウンニュース金沢区・磯子区



版編集室」の取材があり、同紙の二月六日号に写真入りで掲載されました。

さて、梅原賞の名称の由来である梅原清氏は、医療発展に貢献する実践的な医学研究の推進を願い、財団に二億三千万円の御寄附をしてくださいました。この御寄附をもとに梅原基金が設立され、平成十八年度に第一回梅原賞が授与されています。

梅原清氏は、誠に残念ながら昨年二月十一日に、満九十一歳でご逝去されました。改めて心からご冥福をお祈り申し上げます。今後、梅原氏の名前が長く残るよう基金のあり方について見直しを行いたいと考えております。

授与式は、梅原清氏を偲び、功績を讃えるため、黙祷から始められました。まず、主催者である後藤英司理事長が梅原氏の御寄附の経緯、研究助成の実績を紹介、梅原氏の思い出などを語って氏を偲び、永く梅原氏の名前を残したいとの思いを伝えました。

次いで、選考委員会委員長の大野茂男横浜市立大学名誉教授から、受賞者が七月十一日開催の選考委員会で決定されたことおよび選考理由が報告されました。

さらに、ご来賓の横浜市立大学理事長二見良之様から「財団の梅原賞と推進研究助成は横浜市立大学の医学研究の発展に大きく貢献している。助成を受けられ

た研究者の皆様の今後の研究を期待する。」とのあたたかい祝辞をいただきました。市大附属病院医学・病院統括部長の林健一様もご出席いただきありがとうございます。最後にご来賓の市立大学事務局長の下澤明久様をご紹介して授与式を終了しました。

続いて、黒滝先生による記念講演会が行われました。わかりやすい画像と説明でまたたくうちに予定の三十分が経過し、続く質疑応答も非常に活発でした。

最後に黒滝先生に全員で盛大な拍手を送り好評のうちに講演会が終了しました。黒滝先生から受賞の感想が寄せられましたので、ご紹介させていただきます。

「この度の梅原賞受賞は、身に余る光栄であります。研究を進める上でお世話になりました。免疫学教室の田村智彦教授をはじめ多くの先生方に心から感謝申し上げます。今後は我々の基礎研究から臨床に役立つ成果を生み出せるように、さらに研究を進めてまいります。」

## 令和二年度を迎えて

当財団は、平成四年四月、横浜市立大学医学部創立五十周年記念事業の一つとして、医学の研究や教育の助成を目的に設立されました。平成二十三年度に一般財団法人となり、これまでの助成額総額は約五億九千万円にのぼっており、医学部等の研究・教育の推進に大きく貢献してきたと確信しております。

俱進会の皆様にはこれまで格別のご理解、ご協力を賜り、ここに厚く御礼を申し上げます。

さて、三月十一日に世界保健機構（WHO）が、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを表明し、財団もやむなく理事会、評議員会を中止し、また、売店の売上にも大きな影響が及んでおります。今年度は諮問委員会の答申もあり、助成内容を見直して基金の取崩額を削減致しましたので皆様にご報告申し上げます。

## 財団諮問委員会の答申

昨年六月の理事会で財団の今後のあり方を検討する諮問委員会（遠山愼一委員長）の設置が決まりました。理事長からの諮問内容は、①財団の公益財団法人化、②助成金（助成額、助成対象など）、③売店の継続経営です。委員会が二回開催され、以下の答申がなされました。

### 【答申の要旨】

- 1 寄附募集において有利とされる公益財団法人への移行については、メリット、デメリットを見極めつつ、社会状況の変化等も勘案して慎重に検討を進めるべきである。
- 2 現在、黒字となっている売店の継続経営については、今後の方針についての判断をただちに下すよりは、今後の経営状況の推移をみて判断した方が賢明と考える。
- 3 寄附金の募集については、現在、必ずしも活発とは言えない広報活動を抜本的に見直し、ホームページの充実など改善を図るべきである。
- 4 助成（助成額、助成内容）は、現行

の計画を見直し、取り敢えず時限的な助成額削減等を断行して基金の取崩しを最小限に留めるべきである。

### 令和二年度予算について

令和二年度予算は三月十六日開催予定の理事会、同二十四日開催予定の評議員会がそれぞれ中止のため、やむをえず書面評決による決議に変更しました。

理事会から財団の安定運営及び永続活動が強く求められているため、堅実な予算としています。

研究等助成事業などの公益事業については答申を受けて助成内容や助成額を抜本的に見直しました。

売店経営では、二十九年度以降に続き、収入、支出とも実績を踏まえた額を計上いたしました。

賛助会費、寄附金収入につきましても元年度実績に則った額を計上しています。

#### 一 令和二年度収支予算の具体的内容

公益事業の予算総額は一六二五万円です。昨年度より五九五万円減額となります。

#### I 研究等助成事業 総額一八〇万円

##### 1 推進研究助成 合計五〇〇万円

梅原清氏御夫妻からの御寄附を財源とする梅原基金による助成です。臨床応用が期待される優れた医学研究に対する助成で、原則として三か年度継続助成を予定しています。梅原清氏の名前を末永く残す観点から、二年度は新規募集を行わず、継続助成のみとします。

助成額 一件一〇〇万円 計五件

#### 2 わかば研究助成 合計五〇〇万円

四十歳以下の医学研究者が自らの発想で行う研究を対象にします。将来性のある若手研究者への助成で当財団の特色となっている助成です。

助成額 一件五〇万円 一〇件

#### 3 医療技術研究助成 合計六〇万円

横浜十全会基金を財源とする助成で、医師を除く医療従事者が行う実務的研究や業務改善を図ることを目的に助成します。

助成額 一件三〇万円以内

#### 4 医学・医療関連事業助成 合計六〇万円

医学・医療における社会的課題に対する組織的活動の支援を目的に助成します。

助成額 一件三〇万円以内

#### 5 指定寄附助成 合計六〇万円

助成研究領域を指定した寄附金に基づく助成で二領域あります。令和元年度に受け入れた指定寄附金が十万元以上三〇万円未満のものは一定額を加算して三〇万円を助成します。

令和元年度に助成予定であった①腎臓内科学関係は応募がなかったため、二年度に再募集いたします。

- ① 腎臓内科学関係 三〇万円
- ② 腎臓がん関係 三〇万円

#### II 横浜市大教育等助成事業 総額二三〇万円

##### 1 先導的教育事業助成(新規)

#### 合計 一〇〇万円

横浜市立大学医学部・大学院教育・臨床研修の質の向上に繋がる優れた取組を助成します。

助成額 一件五〇万円

#### 2 学生自主的活動助成・危機管理助成 合計 一〇〇万円

横浜市立大学医学部の学生、大学院生、附属2病棟の臨床研修医が国内外で行う自主的かつ優れた学術活動や研修参加等、また危機管理(医療安全・感染制御)等で迅速な対応が必要な活動を助成します。

助成額 一件一五万円以上

#### 3 学術講演会助成 三〇万円

「三杉記念医学教育研究基金」を財源として二十八年度に開始された助成です。財団が共催する学術講演会に助成します。

#### III 医学・医療啓発事業 合計 二二四万円

財団ホームページを、より見やすく分かりやすくするよう全面的に見直します。研究報告や財団の活動を広く知らせて、多くの方に財団への理解を深めていただくたいと考えております。

加えて、助成実績とその成果をわかりやすくまとめた報告書等を作成します。

公益事業基金の取崩額は研究等助成額の削減に伴い、五百六十万円に減額します。

#### IV 附属2病棟の売店経営

新型コロナウイルスの流行のため、二

月から多くのマスクが売れましたが、業者からの供給が止まり、品切れとなっています。

両附属病院がお見舞お断りの措置を講じたことにより、売店のご利用者が減少しました。このため福浦売店では三月の祝日、土日曜日の閉店時間を二時間繰り上げて十七時としました。

平成二十八年度から、コスト高となる営業時間の短縮、福浦二売店の統合、取扱主力商品を医療衛生用品とするなどの経営改善を実施して参りました。

これらの改善が一定の効果をおよぼし、二十九年度からは売店の収支が黒字となっています。令和元年度も収益事業全体で約七〇〇万円の黒字が見込まれますが、売店売上額の減少に伴い黒字額は減少傾向にあります。このため、二年度予算では売店経営安定化準備金の積立ては行わず、純益約七〇〇万円を研究助成などの公益事業及び法人会計の財源に振り替えます。

公益事業を支える重要な事業として、引き続き「明るく、親しみやすい売店」になるよう努めてまいりますので、引き続き、ご愛顧のほどお願い申し上げます。

#### V 財団賛助会員の御寄附について

賛助会費は、俱進会会員の先生方を中心に多くの方々の御協力をいただき、三月末現在で二六〇名の方から元年度会費を納入していただきました。

既加入賛助会員 三〇二名中二三二名

新規加入賛助会員 二六名

寄附金収入は賛助会員、倶進会員の方を中心にして約一八五万円でした（前年度約一九六万円、一昨年度二三四万円）。

御寄附に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも賛助会員ご加入ならびに御厚志を賜りますようお願い申し上げます。

平成四年の設立から現在までの二十八年間には、バブルがはじけて預金利息の激減、法人制度改革（一般財団法人化）、

院内コンビニエンスストア設置に伴う売店売上額の減少など数多くの試練に直面してきましたが、皆様のご理解と、ご協力をいただき、何とかこれを乗り越えて参りました。

皆様方の御支援を賜りながら、今後もしっかりと事業の遂行に取り組んで参ります。倶進会会員皆様の更なるご協力を切にお願い申し上げます。

（理事長 後藤 英司）